

) \_\_\_\_\_

○議長（藤井 要君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 1時00分）

◇ 小 林 克 己 君

○議長（藤井 要君） 一般質問を続けます。

通告順位3番、小林克己君。

（3番 小林克己君 登壇）

○3番（小林克己君） 通告に従いまして、壇上より質問をいたします。

1、一般県道湯ヶ野松崎線の改良整備について、この一般県道湯ヶ野松崎線は、大沢温泉口より池代地区を結ぶこの路線は大部分が狭隘であります。主要地方道下田松崎線と一般県道湯ヶ野松崎線の合流箇所は、近い将来の交通量の増加に伴う行楽時の渋滞や事故が懸念されます。そこで、道の駅かじかの湯及び駐車場の一部を県に提供する。また那賀川に橋をかけ、新たな路線を県道に格上げし、生活産業支援道路としての改良整備をしてはどうでしょうか。また、本線は、法面の保護などの自然災害に対しての備えや防災対策による改善がまだまだ必要と感じています。当町は、本線改良整備について、どのような考えでしょうか。

2つ目、森林整備について、1つ、当町の森林経営管理計画の内容を説明してください。

2つ目、今年度の森林整備（間伐）事業の事業内容を説明して下さい。

3つ目、経済戦略会議について、前回の一般質問でも経済戦略監が必要だと私は述べました。それに伴いまして、町長が広報まつぎきにおいて、「町長室からこんにちは」の一文に、これらの素材を横断的に集約し実行していく経済戦略会議を設置し、実戦部隊の中核とする、という一文がありました。経済戦略会議の設置について、具体的にどのように考えているのかお伺いします。

壇上からの質問は以上です。以後、質問席からの質問といたします。

（町長 長嶋精一君 登壇）

○町長（長嶋精一君） 小林議員の質問にお答えします。大きな1つ目、一般県道湯ヶ野松崎線改良整備について、かいつまんで申し上げますと、大沢温泉口より池代地区を結ぶこの路線は、大部分が狭いと、そこで、道の駅かじかの湯及び駐車場の一部を県に提供する。また、那賀川に橋を架ける。その新たな路線を、県道に格上げし、生活産業支援道路として改良整備をしてはどうかという質問でございます。

回答申し上げます。ご指摘のとおり、主要地方道「下田松崎線」と一般県道「湯ケ野松崎線」の合流箇所は、道路幅が狭く事故等が懸念されています。ご提案の県道「湯ケ野松崎線」の改良整備は、こうした懸念を解消する方法の1つかと思いますが、県道を管理する静岡県との協議や地元大沢区の協力、さらには道路用地の確保や橋梁整備費用の問題などクリアしなければならない問題が山積しています。今後は、さらに内部で検討し、県へも相談しながら道路改良が可能かどうか判断したいと考えております。

また、県道「湯ケ野松崎線」は道路の狭隘箇所がまだまだ多く、町では道路拡幅や法面保護など防災対策も必要であると認識しており、今後も引き続き、県へと要望を続けていきたいと思っております。なお、本年度の県道「湯ケ野松崎線」の整備事業として、県では大沢地内にある那賀川橋の耐震補強設計や、池代地内の道路狭隘箇所となっている220メートルの区間を改築するための用地測量や用地買収を行っております。

質問の2つ目、森林整備についてでございます。そのうちの、1つ、当町の森林経営管理計画の内容を説明して下さい、ということでございます。

お答えします。昨年度、森林経営管理法が施行され、森林を大切な資源として管理し守っていくために、新たな「森林経営管理制度」がスタートしました。この制度は、適切に経営管理されていない森林についても、意欲と能力のある林業経営者に集積・集約化するとともに、それができない森林の経営管理を市町村が行うことで、森林の適切な管理を図るものであります。当町では、これに沿った経営管理を進めるため、昨年度、森林環境譲与税を活用し、対象となる町内の私有林、人工林2,140ヘクタールについて、森林の植生や施業履歴などの基礎情報等の収集、実施に向けたロードマップなど、今後の森林整備を進めていくための全体計画を作成しました。この計画では、森林の調査、整備、管理については単年度で実施できる規模ではなく、長期的かつ計画的に行う必要があるところから、実施にあたっては町内を7地区に分け、初回地区の事前調査、意向調査及び現地確認を2年と、森林整備に必要な23年を合計し、着手してからおよそ25年で町内森林の整備を一巡する計画となっております。本年度は、この計画に基づき森林所有者に対して、森林経営管理の意向を把握するためのアンケート調査や現地調査を行うことになっております。

森林整備についての2つ目の質問でございます。今年度の森林整備間伐事業の事業内容を説明して下さい、ということでございます。

お答えします。本年度、町内で間伐が予定されているのは、小杉原、南郷、岩科・道部地区の合計7.24ヘクタールで、2つの民間事業者が実施する事業に対し、町が補助金を交付して事業

支援を行うものであります。この補助金の財源は、事業費の1/2以内を国から、事業費の1/3以内を県からいただくことになっており、補助金を除いた残りの事業費は事業者が負担することになります。町としましては、森林を大切な資源として守っていくため、今後とも引き続き民間事業者が行う、間伐等の事業に対して支援を続けてまいりたいと考えております。

小林議員の最後の質問であります。3つ目、経営戦略会議についてでございます。広報まつぎ、令和2年7月の「町長室からこんにちは」の一部にこれからの素材を横断的に集約し、実行していく経済戦略会議を設置し、実戦部隊の中核とするとある。経済戦略会議の設置について、具体的にどのように考えているのかを、伺います。

お答えします。現在町では、定期的に観光協会、商工会並びに静岡銀行、三島信用金庫といった関係者に集まっていたいただき、現在の松崎町の経済状況の確認、今後の動向などを報告し合い、情報共有を図っておるところでございます。経済戦略会議については、今後の当町の経済的な課題や対策を効果的に実施するために必要であると考えておりますが、具体的な委員の選定については、今後検討してまいります。

以上で、小林議員の質問にお答えいたしました。

○3番（小林克己君） 一問一答でお願いします。

○議長（藤井 要君） はい。

○3番（小林克己君） 1番の湯ヶ野松崎線、那賀川橋の耐震性、これは今耐震設計をされているっていう話を今伺いました。水害とか何かが、もしも起きた時のこの計画水位っていうか、その危険水位、これは大丈夫なんでしょうか……。もしも、あそこの危険水位が水害で危ないっていうのであれば、水管橋の少し上の方に、やはり、新しい橋を架ける方が安全なのではないか、耐震性も新しく橋を架けて、耐震性のある橋を設けた方が安全なのではないか、そのように感じますけれども、この耐震性の他に水害の時の計画危険水位、これは保たれているでしょうか。

○産業建設課長（新田徳彦君） ただいま那賀川橋の耐震性・危険水位等についてご質問がございました。本年度、先ほど町長から申し上げましたように、県の下田土木事務所の方で耐震補強設計を本年度やる予定で、来年度以降に耐震補強の工事をやるということで伺っておるところでございますけれども……。耐震性はないということで、耐震設計を県の方では今やられてると思いますので、これによって耐震性は十分保持されるのかなというふうに考えております。ただ、危険水位についてはですね、ちょっと、今、手元に資料が無いものから、何とも言えませんけれども、この危険水位のことについては、県の方も十分把握はし

てるはずですので、それらを踏まえた上で、今回設計しているものと考えております。

○3番（小林克己君） 危険水位の方はまだわからないということで、了解しました。今、パーク構想の中のちょうど「帯広への道」のところ、全てが県道として扱われる、ということになれば、これから整備管理される上で、県の予算で道路を整備していくことができるのではないかと、自分はそのように感じております。松崎の一般財源を使って、パーク構想の中の「帯広への道」とか何かを整備することなく、県道に格上げしてもらうことにより、財源的にも、それで、なおかつ道路的にも、今ある奥の方の・・・、旧依田邸そちらへのアクセスが良くなるのではないかと考えていますけれども・・・、その辺に関して、今、新しくそこに県道を作った方が、自分は良いと考えております。そこで、率直な意見で、県の方に、駐車場の一部、かじかの湯の土地の一部、県の方に提供する考えはありますか。

○産業建設課長（新田徳彦君） 今、三聖苑のところにありますかじかの湯ですとか、駐車場の一部を提供ということですが、確か三聖苑・道の駅の所につきましては、全て、借地というふうになっておりますので、ちょっと、今この場ではですね、所有者さんの意向なんかもありますので、お答えしかねるところでございます。

○3番（小林克己君） 借地であるということは、ちょっと、自分も認識していなかったもので、了解しました。

それでは、森林整備の方に話を移らせていただきます。ちょうど、1年前ですか、八木山の三ツ平地区、あそこが土砂崩れで、電柱が数本なぎ倒されて、大変な被害に遭われて孤立したことが1年前にちょうどありました。これも、計画的に電線にかかる森林とか何かを、整備していたら、このようなことは多分無かったのではないかと自分は感じております。実際に、去年はこの八木山の三ツ平地区だけで、事が一カ所だけでしたでしょうけれども、同じように世帯が孤立する可能性がある伏倉地区、門野地区、小杉原地区、池代地区、雲見入谷地区、石部地区、今上げたような地区は、正直言うと、土砂崩れ、もしも電柱、電線とか何かで、インフラが・・・、停電で復旧がかなり困難になる可能性がある地区だと自分は、感じております。このような面から、この森林整備、今、いろんな説明を受けましたけれども、防災の立場から東京電力と協力し、送電線や電線への倒木による停電を防ぐ必要があるのではないかと自分は感じております。この辺は、当局はどのように感じておりますでしょうか。

○産業建設課長（新田徳彦君） 今日の被害・土砂災害等ですね、倒木なんかがありまして、電線を傷つけたり触ったり、切れたりということで、停電ということで、集落が孤立すると

というような事が・・・、議員がおっしゃられたように、昨年もそういったアレがあったと思います。今現状ですね、先日も東京電力さん交えての会議がありまして、東京電力さんの方では、今までの保安伐採に加えてですね、予防伐採っていうのも、少し保安伐採より範囲を広げて木を切るというような計画もあるということで、伺っております。ただ、その所有者との関係も出てくるわけですが、そういう方向で町もできる範囲でやればなと思っております。当町の森林経営管理計画で、私有林2,140ヘクタールを整備していこうかなということで、やっておりますけれども、その中でもですね、電線がある所の山林についてはですね、そこを優先的に電線の支障にならないようにですね、伐採ができればなんていうことで、この間も県の職員交えてですね、ちょっとそんな話をしたものですので、そんな意向を踏まえながらですね、今後、森林整備を併せて進めていきたいと考えてる所でございます。

○3番（小林克己君） 確認しますけれども、先ほど町内を7地区に分けて現地の調査を2年、それ以降23年間着手して一巡する25年を1つのスパンとして考える、このような計画があると先ほど言われておりましたけれども、今の課長の答弁ですと、今年、来年すぐにも計画伐採の可能性があるっていう考えでよろしいのでしょうか。

○産業建設課長（新田徳彦君） 森林経営管理計画につきましては、昨年度、令和元年度にですね、全体の計画を立てまして、令和2年度以降はこういう形で進めていきたいと思いますよという、大まかなロードマップみたいなものを作りました。今年度、実際まだ業者の方に、ちょっと委託が遅れちゃっているんですけども、本年度は現地調査ですとか、あと、森林所有者の方に、アンケート調査をして、施業の方をですね、どういう意向があるかっていうのを把握しようかなと考えている所でございます。来年度以降ですね、整備にあたっては所有者の意向なんかを踏まえながらですね、当たって行くと・・・、ただ、何分にも、町内先ほど申しましたように、2,140ヘクタールというような、すごい・・・、町の面積の約8割方を占めている状態だものですので、なかなか数年で終わらないような・・・、ことで、ちょっと伺っておりますので、昨年度立てました計画に沿ってですね、粛々と、進めていきたいと考えております。

○3番（小林克己君） 今までの林業は材木を育てて販売して・・・、っていう林業であったことではあるけれども、これからの森林は災害の防止や地球温暖化の防止、水利資源の涵養と公益的な役割を担うところが・・・、期待される所が多分多くなってくると思います。その中で、防災という所で、今、課長が述べていただいた、優先的にインフラの・・・、電線の所を

整備していただけるって話をお伺いしましたので、この森林整備についての質問は終わらせていただきます。

続きまして、経済戦略会議について質問させていただきます。コロナ禍、今このような状況の中、ゴールデンウィークで帰省するのは止めておこう、また、このお盆の時にも帰省するのは・・・、と言って、松崎から首都圏へ行った方々が正直言って帰ってくるのを控えようと思って、帰って来れなかったりとか、またこれからのシルバーウィークであったり、秋祭りも開催されない、正直言いますと・・・、コロナがもしも密で発生した場合、誰が責任を取るんだ、このような形で秋祭りもやらないような方向に、この町は正直言ってなっております。午前中、町長の行政報告のアレで、町民満足度の高い町づくり、正直言って、お年寄りが孫と帰省を楽しみにする、ごく普通のあたり前のこの満足です。これから、迎えるお正月または成人式、この時に帰ってくるなど・・・、なかなか言うのは、多分、辛いと思います。すでに町民の方たちは、このお盆の時期にも帰ってこないで、我慢されております。そこで、まつぎき荘、これを帰省する松崎の人、これを受け入れては・・・、自分はどうかと思っております。町長の責任のもとに、またはその保健所の指導、役場の職員の管理・指導のもと、成人式とか帰省を楽しみにしている松崎の人たちに、満足するような場所を提供しても良いのではないかというような、自分は考えがあります。そこで、この経済戦略会議、早急にでも招集して、行う必要があるのではないかと、自分はそう考えていますが、町長はどうお考えでしょうか。

○町長（長嶋精一君） 私は広報で必要だというふうにしたのは、小林議員が以前、この議会の中で話されたこと、まさにその通りだと思っておりました。そして、私も、前から経済戦略会議という名称はともかくとして、そのような組織を作っていかなければ、いけないなと思っておりました。ですから、2つの\*\*が合致しているわけですが、先に申し上げたとおりに、その重要性は、非常にわかっております。でもあの・・・結構、やることが多くてですね、そこにまだ、踏み込んでいないんですけれども、あの必ずや、これらの方は・・・、会議を設けるのが目的じゃなくて、どういうふうなまちづくりをするのかということで、いろんな・・・、同じ考えのもと、\*\*\*ばかりでなくて、いろんな面からですね、いろんな人のご意見を聞いて、さらにいい意見がでるような形に、そういうふうな会議にしていきたいなと思っております。ただ、注意するのは、そのまだメンバーは、まったく決まっておりませんが、それぞれの人たちの意見を全て聞いておいたら、やはり、それは、総花的になって結局何もできなかったと、いうふうになりがちです。したがって、そこら辺は、やは

り決めていくと、いうことが必要だと、いうふうに思います。船頭多くして船、山に登るという言葉もあります。したがって、ある程度は決定権を持った人が、やはり、進めて行くと、その決定権を持った人というのは、やはり人生のいろんなことで、経験にある人でないと、まずいなあと思います。いずれにしろ、こういうふうな、会議というものは、設けていきたいなと思っています。以上です。

- 3番（小林克己君） 質問します。実際に私が先ほど提案したような考え方ですと、正直言うと、赤字になる可能性があります。赤字になるような施設を正直言って、どうなんだろうと思う方たちも、正直言って中にはいられると思います。でも、自分も、町長が、先ほどおっしゃられたように、町民満足度が高ければ、その施設がそこに存在する意味があれば、いいのではないかって自分も考えております。是非、早急に経済戦略会議を開いていただきたいと自分も思っております。

時間が早いですが、これにて自分の質問は終わらせていただきます。

- 議長（藤井 要君） 以上で小林克己君の一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。

（午後 1時29分）

---

- 議長（藤井 要君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 1時40分）

---